



一足早い越生の春の訪れを、
体いっぱい感じてみませんか。

特集 越生梅林へ行こう

町を代表する観光名所「越生梅林」。昨年はテレビ放映の効果により、多くの観梅客で賑わいました。今年は東武鉄道の地域鉄道元気アップ協働事業として「観梅号運行」や「記念トークショー」が行われるほか様々なイベントが目白押し。きっと今年も多くの人で賑わうことでしょう。

越生梅林に行ったことがある方も、まだない方も、次の見開きページの園内マップを参考に、散策がてらお立ち寄りいただければ、梅の里おごせを肌で感じとれると思います。左ページの越生梅林の歴史や梅の種類のお話を一読してから行けば、新たな楽しみ方を発見できるかもしれません。

今年の春は、ぜひ越生の梅を愛でに越生梅林に行きましょう。

越生梅林のはなし

梅農家で越生梅林保勝会会長でもある新井幾治さん（津久根）は、数々のテレビ等で越生梅林のインタビューを受けてきた名案内人です。今月号では新井さんに越生梅林をちょっと知った気になれるお話をお聞きしました。



越生の梅の始まり

越生の梅は、今から約670年前の南北朝時代、九州大宰府から小杉天満宮（現…梅園神社）を分祀した際に、菅原道真にちなんで梅を植えたのが起源とされています。園内で最も古い「魁雪」は、この頃植えられた梅（越生野梅）です。梅の生育に適した土壌ということもあり、江戸時代には梅はすでに越生の特産品で、出荷されていた記録も残っています。

越生の観光名所として

明治になると観光地としても注目されるようになり、明治33年には地元有志らで「古梅林保勝会」を結成し、翌年には越辺川岸の一角を、奈良の月ヶ瀬梅林にあやかって「新月ヶ瀬豊楽梅林」と命名されました。昭和15年には、大字堂山字前河原を中心とする約2ヘクタールが埼玉県指定名勝「越生の梅林」に指定され、関東屈指の観梅の名所へと発展しました。

た。そして、昭和30年に梅園村と越生町が合併し、32年に「越生梅林」と改称され、現在に至ります。

白梅と紅梅の違いは…

白梅は、6月ごろに梅の実を収穫することが出来ます。一方、紅梅やロウバイ、しだれ梅などの品種は、一般的に食用になるような実はありません。主に観賞用として親しまれています。越生梅林とともに関東三大梅林である水戸の偕楽園や熱海梅園は、白梅や紅梅、早咲きから遅咲きの梅まで観梅に向いている品種が多くあるのが特長です。

越生梅林は白梅の梅園

一方、越生梅林はもともと生産用の梅林から発展していった歴史があるため、園内の約1000本の梅の木的大部分が白梅です。園内は私有の生産梅林で、農家さんが6月になると収穫しています。良質な梅を生産できるように、1本1本丁寧に手

入れがされているため、低木で格好が良く、他の梅園とは異なる魅力があります。

見た目ではわかりにくい梅の種類

戦後、付近一帯に「白加賀」、「べに梅」といった品種が植栽されます。1960年代は梅酒ブームが起こり、それに適した梅が「白加賀」でした。全国的にも南高梅とならぶポピュラーな品種です。最近では、各地で梅干しがブランド化されるようになり、越生町では一段と「べに梅」が育てられるようになりました。「べに梅」という名前ですが、見た目は白い花で「白加賀」より若干花が小さく、ほんのりピンク色しています。これらの梅を見分けるのは難しいですが、みなさんもじっくり観察してみたいかがでしょうか。

越生梅林には、歴史を感じる立派な古木もあります。ぜひ、みなさんも越生梅林へお越しいただき、ご観梅ください。